地域・社会への責任



評価指標	目標	達成状況(2015年度)
○ 重要課題 地域・社会との共生		
ステークホルダーからの評価	私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います(社会貢献活動の理念)	活動に関わったステークホルダーの皆さまから、さまざまな意見・評価を収集(活動の改善に活用)
自社林の森林認証取得率 (審査基準に生物多様性・人権などを含む)	100%	100%

地域・社会との共生	コーポレートアイデンティティの共有
就業支援 67	社有林の活用69
先住民への配慮 67	
環境保全活動 · · · · · 67	
科学技術の振興・・・・・・・ 67	
リサイクル活動の推進 68	
地域の安全·防災 · · · · · 68	
社会見学の機会の提供 68	
災害時の支援活動・・・・・・・・68	
	就業支援・・・・・・67 先住民への配慮・・・・・67 環境保全活動・・・・・67 科学技術の振興・・・・・67 リサイクル活動の推進・・・・68 地域の安全・防災・・・・68 社会見学の機会の提供・・・・・68

方針とマネジメント

地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、 各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

■基本的な考え方

社会全体の発展に貢献し地域と共生します

日本製紙グループは社会の一員として社会全体の発展に 貢献したいと考えています。必要とされる製品の供給を続け るとともに、地球環境の保護、文化や地域社会の発展にも役 立ちたい――そのための活動を積み重ねていくことが、社 会から信頼を得て、地域と共生しながら事業活動を続けてい くことにつながります。

国内外でのさまざまな取り組みは、工場周辺の清掃活動、 植林地域での就業支援など地域に根ざした活動や、社有林 を活用した「森と紙のなかよし学校」の実施、工場見学など、 グループの資源を活かした活動にも及びます。

*** 社会貢献活動の理念と基本方針 ***

(2004年4月1日制定)

理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の 発展に貢献する活動を行います。

基本方針

- 1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
- 2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
- 3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

・・・ 具体的な活動テーマ ・・・

- •グループ各社の工場および海外現地法人における地域 活動の充実
- グループの専門性や資源を活かした活動の推進
- •従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- ●日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 社内外への積極的な広報活動

● 社会貢献活動の推進体制

日本製紙グループでは、CSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を把握するとともに、それらの充実に努めています。

日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧

主な取り組み	具体例	
地域·社会に関する活動		
地域美化活動	事業所周辺の清掃活動	
地域の安全・防災	登下校見守り活動	68
	交通安全への取り組み	60
	消防団への参加	_
地域振興	地元特産品の育成	
地域文化の保全	文化的価値のある桜を守る活動	50
	飛鳥山薪能の運営支援・協賛	_
	文化遺産の保護	_
先住民への配慮	先住民へのハーブ自生地開放	
地域イベントの 開催・参加	お祭りなど地域行事への参加·協賛	_
	所有する厚生施設(体育館など)の一般 への開放	_
	夏祭りなどイベントの開催	_
	社会福祉団体のイベントへの参加・協賛	_
福祉活動	社会福祉団体の製品の購入	_
	チャリティー草競馬の会場提供	_
社会教育の機会提供	CSR講演会(公開セミナー)の開催	_
科学技術の振興	藤原科学財団への支援	67
災害時の支援活動	義援金や支援物資の提供など	68
環境に関する活動		
植樹活動	植樹活動の実施・参加	69
生物多様性の保全	独自技術「容器内挿し木技術」の活用	50
	シマフクロウの保護区を設置	49
		50
		31
	クレインズのタンチョウ鶴保護活動	_
環境保全活動	川をきれいにする活動	67
リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	_
	リサイクル推進団体の支援	47
	牛乳パックリサイクル	47
	木屑リサイクル	68
地域への説明責任	リスクコミュニケーション	37
教育に関する活動		
社会見学の機会の提供	工場見学の受け入れ	68
社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	69
就業支援	インターンシップ、職場体験の受け入れ	62
	地域の人々の就業活動を支援	67
延業員による授業	出前授業、学校授業への協力	68
音楽を通じた	札響ポップスコンサートへの児童·生徒 ご招待	_
教育機会の提供		
教育機会の提供	野球教室、大会の開催	_
スポーツを通じた		
	野球教室、大会の開催	_



→日本製紙グループの主な社会貢献活動

http://www.nipponpapergroup.com/csr/relationship/activity/

地域・社会との共生

地域と共生しながら事業活動を続けていきます

■就業支援

事 例

地域の人々の要望に沿った講習会を開催 (ブラジル AMCEL社)

アムセル社は、広大な面積の土地を保有しており、地 域に住む人々との協調、対話の深化に努めています。そ の一環として、地域の方々から学びたいことを聞き取り、 2014年から講習会を主催しています。

2015年度はMacapa(マカパ)、Santana(サンタナ)、 Itaubal(イタウバウ)、Tartarugalzinho(タウタウガウ ジーニョ)の4地域で、それぞれ「野菜栽培」「養蜂」「健康 食」をテーマに、アムセル社が招聘した専門家を派遣して 講習会を開催しました。各講習会は3~6日間の内容で、



合計300人以上が参 加し、参加者から「実 際の生活に役立つ」と 好評を博しました。

養蜂講習会の参加者



健康食講習会

■ 先住民への配慮

事 例

先住民へのハーブ自生地開放 (チリ Volterra社)

チリ南部では、先住民マプーチェ族が、古くからの固有 の伝統・文化を守りながら生活しています。近年、薬用とし て用いられているハーブの自生地域が、農地化・宅地化な

どによって少なくなっ ています。

ヴォルテラ社は保護 活動の一環として、社 有地内の希少なハー ブ自生地域を保護し、 先住民族の利用に開 放しています。



自生のハーブ Ñanco(ニャンコ)

■環境保全活動

事例

吸川をきれいにする活動 (北上製紙(株))

北上製紙(株)では2004年度から、用排水に利用して いる吸川の川床を清掃しています。月に1~2回の頻度で、 関係会社を含む従業員が総勢20~30人で活動していま す。過去に排水トラブルを起こして近隣の方々にご迷惑 をかけたこともあり、2001年、水質の安定化を目的とし て工場に酸素活性汚泥処理設備を設置、2002年には工 場のある一関市と環境保全協定を結び、日々細心の注意 を払って水質の管理を行っています。

また、一関市内の行政区長を中心とする市民団体「吸 川をきれいにする会 | の役員の方々と毎年1回、意見交換

会を開催しています。会 合では、川床清掃のほ か排水の水質改善への 取り組みに対し、真摯な 活動として感謝の言葉 をいただいています。



吸川の川床清掃

■ 科学技術の振興

事例

藤原科学財団への支援 (日本製紙(株))

(公財)藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞 ともいわれ、科学技術の発展に卓越した貢献をした日本 の科学者を顕彰する学術賞です。創設者の藤原銀次郎翁 が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継 ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。

「第57回藤原賞」では、2016年6月、東京工業大学地 球生命研究所の廣瀬 敬所長・教授および名古屋大学大 学院創薬科学研究科の藤吉 好則特任教授に、賞状とメ ダル、副賞の1,000万円が贈られました。



写真中央が廣瀬教授、右から2人目が藤吉特任教授

地域・社会との共生

■ リサイクル活動の推進

事 例

木屑リサイクル活動の推進 ((株)南栄)

製紙・発電向けチップ製造のほか、日本製紙(株)社有 林も含めた造林・伐出作業を請け負っている(株)南栄は、 熊本県八代市で廃棄物のうち木屑の処理に特化した中 間処理業も営んでいます。家庭や企業から排出される庭 木や支障木、木質パレットなどを、タブグラインダー(破 砕機)で粉砕してボイラーの燃料として利用したり、パー ティクルボードの原料として販売しています。また、一部

はオガ粉と混ぜて家 畜の敷ワラの代替品 として利用されていま す。最近は八代市のゴ ミ焼却場で処分され ていた木屑も利用し ており、八代市のゴミ 減量にも大きく貢献し ています。



庭木の持ち込み

■地域の安全・防災

事例

クレインズの登下校見守り活動 (日本製紙クレインズ ※アイスホッケーチーム)

日本製紙クレインズはオフシーズンを利用して、釧路 工場近隣の連合町内会が行っている子どもの見守り活動 「83(はちさん)運動 | に参加しています。 「83運動 | とは、 小学生が登校する午前8時と下校する午後3時に合わせ て大人が屋外の清掃や犬の散歩といった外での用事を することで、子どもたちを見守ることを生活の一部にしよ うとする運動です。2016年度は対象とする小学校を増や し、子どもたちの安全のためにユニフォーム姿の選手た ちが活動しています。

このほか、クレインズの選手たちは釧路市内の小学校

などに親善大使として 赴き、運動会など学校 行事への参加、出前授 業、スケート教室など を通じた教育も実施し ています。



小学生の登下校を見守る選手

■社会見学の機会の提供

2015年度は16,965人(うち学校関係6,869人)が、海外 を含む日本製紙グループ各社の見学をしました。

事 例

工場見学と紙抄き体験 (日本製紙(株)北海道工場勇払事業所)

勇払事業所では、苫小牧市内外の学校から工場見学を 積極的に受け入れています。地域産業によるものづくり を知るという学校側の教育方針に沿い、工場見学のほか、 手抄きによるはがきづくり体験プログラムも提供してい ます。また、要望に応じて従業員が学校へ出向く、紙抄き 体験の出前講座も実施しています。

子どもたちは、工場見学で紙をつくる機械の大きさに 驚き、その後に自分の手ではがきづくりを体験することで、 普段使っている紙への興味を深めます。実体験をした多 くの子どもから感想文や感謝の言葉が寄せられ、従業員 の励みになっています。今後も地域に根ざす企業として、 教育や文化に対する社会貢献を継続していきます。





紙抄きの説明

紙抄き体験

災害時の支援活動

事例

被災地に対する復興支援 (日本製紙グループ)

2016年4月の熊本地震では、被災地域に主力工場を 置く企業として、地域の復興のために、熊本県、八代市に 対し合計3.000万円の義援金を拠出しました。併せて、大 きな被害に遭った地域に、トイレットティシュー、ウェット ティシュー、紙おむつなどのグループ会社製品を支援物 資として提供しました。

なお、当社グループの従業員にけがはなく、環境事故 なども発生しませんでした。熊本県にある日本製紙(株) 八代工場では生産を一時停止しましたが、他工場の代替 生産などで対応。安全を最優先に復旧活動を行い、4月 24日に生産を再開しました。

コーポレートアイデンティティの共有

日本製紙グループらしさを地域の方々と従業員が体感できる活動を実施しています

■ 社有林の活用

事例

毎年「森と紙のなかよし学校」を継続開催(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))





参加した小学生の声(2016年6月)

自然を楽しんで 元気になりました。

「森と紙のなかよし学校」は日本製紙(株)の国内社有林(約 9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環 境教室です。社有林の豊かな自然に触れ、「森」と生活になく てはならない「紙」とのつながりを体験してもらう機会の提供 を目的として、2006年10月に群馬県の菅沼社有林(丸沼高 原)でスタートしました。

「森と紙のなかよし学校」は、プログラム全体を従業員の知 識と経験を活かして企画・運営しています。グループ従業員の ガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料に した紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしてい ます。参加者は一般から公募しており、募集や当日の引率な

どで(公社)日本フィランソロピー協会の協力をいただいてい ます。菅沼社有林ではスタートから2016年6月までの計20 回で、一般親子、地元の高校生など計674人が参加しました。

また、2007年からは日本製紙(株)八代工場を中心に熊本 県の豊野社有林で、「豊野・森と紙のなかよし学校」を地域に 根ざした活動としてこちらも毎年実施しています。豊野では プログラムのひとつに工場見学を織り込むなど、プログラム 構成を開催地区ごとに工夫しています。

この取り組みは、国連生物多様性の10年日本委員会の「生 物多様性アクション大賞2015」に入賞しました。

「丸沼高原 植樹2016」を開催(日本製紙(株))

日本製紙(株)は、豊かな森林を未来に残していくための取 り組みを進めています。その一環として2010年5月から群馬 県の菅沼社有林で植樹活動を行っており、2016年5月に5回 目となる「丸沼高原 植樹2016」を開催しました。東京地区を 中心に参加者を募り、日本製紙グループ内外から約120人が 参加しました。

参加者たちはスタッフの指導のもと移植ごてを使ってブナ やミズナラなど5種類、計1,000本の苗木を植えました。



植樹を行う参加者

